



平成25年度 中央区地域活性化事業交付金 交付決定事業 【光が丘地区】

平成26年3月31日現在

団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
1 相模原市パークゴルフ協会	パークゴルフ普及活動推進事業	高齢化率の高い光が丘地区では、今後医療費の増加が懸念されている。また、核家族化の進展等により人間関係の希薄化が進みコミュニケーション不足も課題となっている。さらに、災害時等に備え平常時から地域住民の交流を促進し、地域住民の連帯強化が求められている。	パークゴルフは、ルールが簡単で身体にも負担をかけない運動であるため、世代を問わず楽しめるスポーツである。このパークゴルフを地域に普及することにより、高齢者の健康増進や世代間交流の促進など、様々な地域課題の解決の一助とする。	1、パークゴルフの広報活動の推進 ・体験教室の開催(主催事業) ・地域団体の主催事業への指導協力 ・各種媒体によるPR活動 ・相談事業 ・用具貸出 2、プレーのマナー、ルールの教育(初心者を中心に教室を開催) 以上の活動を年間を通して実施する。	6月19日	340,000	280,000	280,000
2 福祉の里づくり推進委員会	若者世代の地域活動への参加促進事業	地域内にある中学校、高等学校、大学に通学する若者及び地域に在住する若者世代が、地域の福祉活動について、一定の役割をもって継続的に参加できる仕組みを構築し、地域のボランティア団体、ボランティア活動をしている者と協働し、障がい者や高齢者への手助けの活動を体験していき、地域で果たすことのできる役割を理解することが求められている。	当地区は65歳以上の高齢者の割合が27.8%と、市内でも1、2を争う高齢者率となっている。その中であっても、毎年開催している「光が丘地区ふるさとまつり」に代表されるように、地域住民のつながりは極めて強く、そういうこともあって「福祉コミュニティ形成モデル事業」においては市内のトップをきって実施された経緯もある。しかしながら、このコミュニティの持つ強みも、次の世代に引き継がれていかなければ、益々進行していく高齢地域の将来が危ぶまれる。そこで、継続的に若者世代が地域の活動に参加することを促進しようというのがこの事業の目的である。	福祉バザー、街頭募金、お年寄りの集い、ふれあい交流会、スポーツ大会、公民館まつりなどに若者層が参加しやすいように、活動場所を設定し、参加することで自然に地域社会が抱える課題に気付き、自ら参加の仕方を考える機会を提供する。 地区社会福祉協議会ほか地域団体が主催する上記の事業に年間を通して派遣する。	6月19日	450,000	450,000	450,000
3 ふれあいいきいきフェスタ実行委員会	ふれあいいきいきフェスタ	3年間事業実施した「光が丘わがまちフェスタ」を通じて、地域内における団体間の交流が盛んになり、新たな組織間連携も生まれつつある状況ではあるが、核家族化や少子化に伴い、従来、家族内や地域で行われていた高齢者と子どもの交流は減少し、それぞれの世代で抱える問題が多様化している。そんな中、高齢化が進む光が丘地区では、「様々な世代に元気を与えること」と、それぞれの世代が共に活動し、お互いを理解していく交流「世代間交流」が求められている。	それぞれの世代において活躍するサークル等の発表や練習の場を提供することで、「活動している喜び」を感じてもらい、他世代の活動を見ることがや遊びを通じた世代間の交流を図ることで、お互いを理解しあえる環境作りをする。「世代間交流」によって子どもたちは多くの人間関係の中から様々なことを学び、高齢者はその能力、経験を社会的に活用すること場を見つけることで、生活の質を高めることができると考える。本事業の展開は、すべての世代の人々が、お互い住んでいる人々の気持ちに寄り添いながら生活できる環境づくりの構築を目的とする。	・公民館活動団体等のステージ発表(子どもから高齢者までの活動発表) ・遊びを通じた世代間交流コーナー(竹とんぼ・ビー玉・お手玉等の昔ながらの遊びを通して交流を図る) ・パークゴルフ、ペタンク等のスポーツを通しての交流コーナー ・ものづくり体験コーナー ・職業体験コーナー(警察官、消防士、宇宙飛行士等、企業に協力依頼する。) ・地域団体による展示、模擬店、バザーなど ・協賛団体・企業の展示、催事など	9月6日	1,800,000	1,800,000	1,800,000

	団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
			事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
4	光が丘地区人材ネット設立準備委員会	知識や経験を持った人の地域活動への参加促進事業	光が丘地区は旧相模原市内では、28%という最高の高齢者率であることが特徴の地区である。大きな工場、商店街、公的機関もない、ごく普通の住宅街である。そこで、この地域では、歴史的にコミュニティでの交流、連携、協力が最も大切なものと考えてきた。また、光が丘地区まちづくり会議の第1グループ分科会では、これからのまちづくりに活躍願える人材の発掘と実践活動を進めることをテーマとして検討を進めてきており、地域団体へのニーズアンケート、まちづくり講演会の実施と人材についてのアンケート(保有する力量の問いかけ)を行ってきた。当委員会はこれらの活動を発展させ、地区内で知識や経験を持った人の地域活動への参加促進を実現するために設立したものである。	地区内の人材登録を進めることによって、地区内の人材が持つ力量を可能な限り把握し、次のステップである「光が丘地区人材ネット」の構築につなげていくことが今年度事業の目的である。	「光が丘地区人材ネット」の趣旨説明と人材アンケートへの記入を求めるチラシを作成し、地区内の自治会加入家庭を中心に、地域における幅広い力量を持った人の情報を収集する。	8月29日	90,000	90,000	90,000
5	光が丘地区自治会連合会	光が丘地区防災マップ整備事業	地域住民の防災に関する関心は高まっているものの、一時避難所・避難所の場所など災害時に必要となる最低限の情報を正しく把握できておらず、正しい防災知識の習得・共有化が必要な状況にある。 また、自主防災隊の活動が盛んではあるが、地区内のすべての組織においてその取り組みが十分なものではなく、光が丘地区として防災隊の機能強化を進めるには、防災隊の防災意識の高揚を図る必要がある。	大規模な地震や台風などの災害が起きた時の日頃からの備えの一助として、防災意識の啓発と正しい防災知識共有化を図るため、避難場所や防災施設などを地区内の誰もが確認できるよう防災マップ作成し全戸配布する。 自治会未加入者へは、防災マップの配布時に自治会加入を呼びかけ、自治会加入促進と地域防災力強化を目的とする。	光が丘地区防災マップを作成し、地区内すべての世帯へ配布する(12,000部作成)。	1月30日	328,000	328,000	328,000
							3,008,000	2,948,000	2,948,000